

追悼文

葛原 茂樹 先生を偲んで

水澤 英洋

国立精神・神経医療研究センター 名誉理事長, 理事長特任補佐
東京医科歯科大学 名誉教授, 特命教授



故 葛原茂樹先生

現職：鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科長, 同大学看護学部教授, 三重大学名誉教授, 日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業プログラムスーパーバイザー

略歴：1970年東京大学医学部卒業。1972年東京大学神経内科入局。1977年筑波大学神経内科講師。1979～1981年米国ウェストヴァージニア大学, クリーブランドクリニック留学。1983年東京都養育院附属病院神経内科医長。1990年三重大学神経内科教授。2001年三重大学医学部附属病院長。2007年国立精神・神経センター病院長。2010年鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授。2014年鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科長, 同大学看護学部教授。2006～2010年日本神経学会代表理事。2015～2020年日本医療研究開発機構難病克服プロジェクトプログラムディレクター・再生医療実現拠点ネットワークプログラムスーパーバイザー。2015年日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業プログラムスーパーバイザー

第6代日本神経学会代表理事で鈴鹿医療科学大学教授, 三重大学名誉教授の葛原茂樹先生は, 2021年11月28日未明膵臓癌のために享年76歳でご逝去されました。先生は明るく朗らかなお人柄で患者さんや同僚に慕われるとともに, 多くの業績を上げられた優れた脳神経内科医であり神経学の泰斗でした。また, 広い視野と深い思慮をもって多くの領域でリーダーとして活躍されました。在りし日の先生を偲びここに謹んで哀悼の意を捧げます。

葛原先生は1944年に中国 長春 (旧満州国 新京) でお生まれになり, 1945年から岡山県津山市で成長され1963 (昭和38)年に東京大学医学部に入学されました¹⁾。1965年にはインターン闘争が始まり, 全国に大学紛争が拡大し1969年には東京大学の入学試験が中止になるという激動の時代でした。1970年に卒業後2年間の非入局スーパーローテート研修を経て豊倉康夫教授が主宰する神経内科教室に井上聖啓先生, 玉城允之先生と一緒に入局されました。大学病院等での神経内科臨床の研鑽の後, 第4研究室に配属され高須俊明先生の元で研究を開始され, ラットを用いたメチル水銀の体内分布をマクロオートラジオグラフィで明らかにされました。1977年には創設間もない新構想大学である筑波大学臨床医学系神経内科 (中西孝雄教授) に講師として着任し, 教室作り

に貢献されるとともに, Gerstmann-Sträussler-Scheinker 病の臨床病理, Horseradish peroxidase を用いた外肛門括約筋・坐骨海綿体筋を支配するオヌフ核等の検索など最先端の研究を展開されました²⁾。1979～1981年には米国ウェストヴァージニア大学, クリーブランドクリニック Samuel M. Chou 先生のもとに留学され運動ニューロン疾患の臨床・実験病理学で重要な成果を上げておられます。1983年に東京都養育院附属病院 (現・東京都健康長寿医療センター) 神経内科の医長として着任, フルナリジンによる薬物性パーキンソンニズムの発見³⁾, レビー小体の免疫組織化学など基礎から臨床に亘る多くの業績を上げられました。

1990年に三重大学に新設された神経内科に着任され, 教授1名と貸与の助手2名で15床の入院診療からスタートし, 1997年には念願の講座に昇格し教授, 助教授, 講師, 助手1名ずつの体制を実現されました。2001年～2005年には病院長として医療安全, 経営改善, 組織改革, 大学法人化などに尽力され同病院の発展を指導されました。同時に三重県の全ての中核病院に神経内科を常設することをめざして人材育成を推進され地域医療に大きく貢献されました⁴⁾。三重大学神経内科で育った多くの脳神経内科医は三重県はもとより全国で活躍しておられます。

先生の世界的なご業績の一つに, 紀伊半島に多い筋萎縮性側索硬化症, パーキンソンニズム認知症複合の再発見とその病態解明が上げられます⁵⁾。これらが牟婁病として江戸時代から知られていたことを見いだされ, 詳細な再調査により一時期消滅しつつあると思われていたこれらの疾病の患者さんが多数おられることを明らかにし, 臨床的・病理学的・分子遺伝学的研究を行いその実態を解明されました。また, 同様な症例の存在するグアム島やバプアニューギニアでも調査研究を進められて国際共同研究を進展させました。身近な地域の患者さんの診療から世界に大きく発展する国際的な研究を指導された先生のお力に敬意を表する次第です。

2007年には請われて国立精神・神経センターの病院長に着任され, 今度は日本全体の精神科診療と神経内科診療を発展

させるべくご尽力されました。日本神経学会では1983年から代議員、2002年から理事としてご活躍でしたが、2006年～2010年には第6代代表理事として、学会の法人化、学会事務局体制の構築、財務委員会の設置、教育委員会の改組、アジア諸国を中心とした国際化、日本神経学会創立50周年事業など多くの改革や事業を推進されました。私は2005年から総務幹事としてご一緒しましたので、これら全てに亘ってご指導いただきました。先生は日本神経学会以外でも日本神経治療学会、日本認知症学会、日本末梢神経学会、日本神経感染症学会などの理事を歴任し学術大会長を務めるなど幅広い活躍をされました。日本学術会議では連携会員として、厚生労働省関係では医師国家試験委員、神経変性疾患調査研究班の主任研究者としても学術や医学教育、医療に大きな貢献を続けられました。

葛原先生は、思ったことを率直に口にして話をされ、時には「口角泡を飛ばす」ほど一生懸命に熱弁を振るわれますが、不思議と嫌みは無く皆さん納得されるのが常でした。それは、天性の直感により本質を見抜き正論を真摯に熱意を持って話されるからであると思います。

先生は、優れた脳神経内科医、神経学者であるのみならず、病院長や代表理事として非常に多くの領域でリーダーシップを発揮されました。これは先生が単に医学、医療のみならず、常に社会全体、世界全体を広く見渡しておられたからと拝察しております。三重大学神経内科から毎年お送りいただいた年報にはご教室のみならず広く国内外の出来事が年表として掲載され、世界の中での自らの立ち位置を自覚できるようになっておりました。

葛原先生は2010年に三重に戻られ鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授に着任され、2014年には現職の同大学看護学部教授、同大学大学院医療学研究科長としてご勤務を続けられました。さらに、2015年からは日本医療研究開発機構(AMED)難病克服プロジェクトプログラムディレクター・再生医療実現拠点ネットワークプログラムスーパーバイザー等として、AMEDから研究費が交付される多くの研究のご指導をされました。これらのご活動はご病気がわかってからも治療を続け

ながらほとんど変わりなく進められ、まさに先生の研究への情熱と信念の強さを物語っていると思います。

2021年10月末に三重の地で開催された日本神経治療学会では久しぶりにゆっくりとお話ができましたが、腰が痛いといいながらもお元気に学会に参加しておられました。恐らく最後の論文と思われる Kii の Amyotrophic Lateral Sclerosis についての臨床神経学誌の総説は2021年11月6日にオンラインで発刊されました⁶⁾。先生の脳神経内科と神経学に対する真摯なお姿に改めて敬服した次第です。

優しく温かいお人柄と正論を真摯に貫く強さを併せ持った、たぐいまれな脳神経内科医かつ神経学者であった葛原茂樹先生の教えは、これからも私たち後に残された者の心の中に生き続け、導いて下さるものと信じております。ありがとうございました。ゆっくりとお休み下さい。

合掌

文 献

- 1) 三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻神経感覚医学講座(神経内科科学講座)編集。葛原茂樹教授退職記念誌。2008. p. 1-400.
- 2) 葛原茂樹。会陰筋支配神経の起始核について一逆行性軸輸送を利用した研究—第I部 ネコについて。臨床神経 1979; 19:695-703.
- 3) 葛原茂樹, 幸原伸夫, 大川義弘, 布施 滋, 山之内博。Ca拮抗薬フルナリジンにより誘発されたパーキンソンニズム, 抑うつ状態, akathisia : 31 症例の検討。臨床神経 1989;29:681-688.
- 4) 葛原茂樹。折々のふみ。三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻神経感覚医学講座(神経内科科学講座)。2008. p. 1-214.
- 5) Kuzuhara S, Kokubo Y, Sasaki R, Narita Y, Yabana T, Hasegawa M, Iwatsubo T. Familial amyotrophic lateral sclerosis and parkinsonism-dementia complex of the Kii peninsula of japan: clinical and neuropathological study and tau analysis. Ann Neurol 2001;49:501-511.
- 6) Kuzuhara S: "Endemic paraplegia of Koza in Kii" in Honcho Koji Innen Shu published in 1689 is probably the earliest description of amyotrophic lateral sclerosis of Kii Peninsula: Presentation of the original and investigation of factuality. 臨床神経 2021;61: 815-824.